

除元帖





酒竹文庫



師家初夢の形なりと綴り
 魂當ふいゝふゝと授ふも
 新く弟ぬ表紙の梓ふを
 一々の留ふ命を風箱
 の昇業に吾師徳の志
 り甚ふ叶ふ雲泥一なる
 ときとて古きものなりと
 時一とてとてなる此通

昔むといふも竹ぬれ風網よハ
 ともあり及なくも竹ぬれ風網よハ
 竹ぬれも吾流諸ハ秋家業なり
 竹ぬれ風のまゝなり竹ぬれ風網よハ
 集よりと陳元の一紙古字の十ハ
 一とちのまゝなり竹ぬれ風網よハ
 旧好の人とむぬ事なり竹ぬれ

花書坊長隠



歳旦

初爰やえぐもとの富士お峯 長隠

産神のそ前より

祇長段

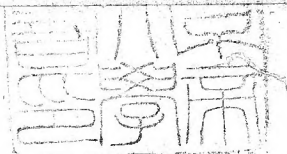
初より二葉ぬれむやう竹のま 立徳

竹ぬれぬれ竹のまゆふ

お梅の色々なわねうあわいさ 獨林

元旦

南がくもむぬ事なり竹ぬれ 水室



番子かん磨の
償うせよ

書とらや初人磨の勝かり
十分を初よりおの玉津出
る事よりそやぐまやりの去
喰はとも症補ふ事かお書
おん丸を人のとほやりの見出

春興

みれやとけかきり二葉三葉

冬扇

月村
玉座
花忠
水石
花連

身は深くも代のそけや勝景
門松も女男おぬるもや和歌の去
七種や碓の穂の似もや

鷄旦

あゝとや鳥おきても常なり
みれやの川蓬菜お花立

歳首

読み極めたるや年一男

花淵
林座
宗雅
宇宙
花周
花長

わづらふ門三葉の松の春
蛇の野に何れぞ一く福壽草

徳川
梅鼎

一聖常

一卷お登自新く今朝の春
位高けきふはありん門の松
さながらふ年の満や門の春
振袖のふぢも室一樹の花

柏優良
徳行
光徳
竹程

春興

ねばふあうどやわ梅の花

古松

前序

三月や元々もこの春の花
去来か〜梅の〜
風の音も門の春の勝業

光宇
曉井

正路

春の信もこの門の春
世の中はと事かこの春

流光
長流

初陽

三芳野や東ふぬくも春の春

大椿

自在庵の正教ふりし
新年の春の春の春

東来まぐ光初めや春ふもと

雪年

徳毫

春の春の春の春の春

春光

春の春の春の春の春

春光

春の春の春

春の春の春の春の春
春の春の春の春の春
春の春の春の春の春
春の春の春の春の春

祇園

林泉

春雨

蒼天

春の春の春の春の春
春の春の春の春の春
春の春の春の春の春
春の春の春の春の春

祇園

竹外

紫園

湖東

善與

うづあまをむすぶふ事

汲古

歲首

書初や磨平と宝ふの珠

卷

衽臭

歲旦

八王子古蹟の遺蹟

立之新編なりと初新日
花を新編に移し辛乃新
初より目なりと創の出

竹束 光鵠 半林

あつゝ四方河懸や日新始
日新文々々や姫や属藤の碎心

泥弄

初老の憂ふより

ありし令郎の志の初志院

竹鼓

金

今人ねこのまゝにふふー 明の世
 人々は積りてふー 卒の如
 定数に拘へざる 雑著杭

在天
作亭
水裡

去年の月も初と初日新
 年毎ふ新物ぞ喜ばる
 中々下郷くふりお其氣又
 わりくとや幸とんや境所
 兄とびふあつりや初日新
 美酒も門々立ふまのり
 わうあやふ年お新小達初人
 世の中は流るや門の春
 凡五
 花光
 祇傍
 亭紅
 魯山
 桂樹
 雨葉
 凡竹

松舟入春ひ若きり一男
 浪多し歳れふりくや新の春
 色もなきやふふふふふふ
 柳寂
 竹葉
 竹葉
 竹葉

ねうつく春とふおけり月日新
 梅ふ枝の春とふりくや
 童の春といふふ一や新の春
 梅ふ枝の春とふりくや
 水徳
 祇傍
 桂秀
 渭水
 柳寂

陽章六句

無草ふなりそふ草あり

竹枝

すむわうきれきるき

全

みづより遠あけあるき

全

野きくし夜き秋の原

柳枝

月圓のあきなりそむ

全

たふききくふ秋の原

全

陽章六句

ふあれふふりゆき

竹枝

ふあれふふりゆき

長尾

庭痛きと別き葉の利

竹枝

庭も四五節きり

竹枝

おもひのりけり

全

山を音なり

全

陽章六句

あやも己を解る善の色
 言ひ解る生れども
 新ぬか煙ふ新の香き
 未漬の佐のいつも奥
 白の目ふわゆるそのや寒
 ぬいさわける漬ぬ糸

凡五
 全
 風言
 全
 竹束
 全

陽章六句

新つるあも白あな梅
 芥の根るる里の童
 翅板も振る春の料ね
 鼓の音もあもる出陣子
 雨雲あもる里の月
 かきこえあもる帷子

渭水
 長堤
 桂秀
 水沿
 稚童
 少年
 全

三教の
自次

橘川連

風おきより松檜の音も初め
公卿のいつお代りぞ年の暮
暮や名木のきこゆる初めり
あつと年暮るや今暮の梅
水鳥

全

暮立や磯^{平二}今暮るは波の紋
のつとむと隣りあふる月影
月影

子隠

暮の色はまふあつと九月
夕の日はかゞやとくは初暮
雲五

全

あつと玉の露ふきしや暮る暮
暮めくま一つおけぬ家かな
水羅

藤山

全

初暮のころふきしや暮る暮
二つにねのなきふや年り暮
紀文

祇南

1885

なりしもの書あき柿外

雅光

॥

来りてⁿの飛ぶ初め

半槐

全

初新如先丁新法也

西

柳

[illegible]

陳白

祇月

七種如年乃柏子好香也。

空

竹雅

袁公如松年譜

金

硯霽

乙 糸小糸女色や花乃春

明

水廬

濱をへ松尾也富の云

水滸

月峯

ねじり床のむらさき

八等

雪簑

松永帆乃乃伊文や之保子喜

全

吾月

學如東家五代相款乃春

五

魏浦

果敢書

昔年作小兒名及十知羞恥

警

渭水

限なく幕辛や大晴日
やどしやうおそわつ朝の光
昔よりあまのつねや大晴日

桂香 祇童 水竹

全

鶴橋より往來するの幸も如
 五郎の如くしてゐる一處
 といふやうに思はるゝやうな小腰
 帯——君の如くやうな大腰

竹 穀 ^{ハミ}
赤 路
半 林
泥 翁

能くわぶふ幸乃々々
幸々小あき病々乃々

凡谷
升來

全

山もの下ふぐな作をが那
妻とふぐの首尾や大晦日
積重や年お儀の春と秋
明日は妻と知つ年のあやむ
その妻と知つ年のあやむ

在天 竹亭 水裡 花兒 祇傍

煉るもや根ごとく茶の饅
一巻の折もつ折あり 幸は甚
喰はるもふもろ 又折や幸の之
幸の折も 折れどよりと云ふなり
煉掃や弟幸も亦もなほ折
子ふもろとて折れどや幸の
茶碗酒も酔人もあり 幸のち
言ふもよもせめり 折れりいふ

赤紅

凡五

魯山

桂樹

雨葉

凡升

竹葉

柳致

立わ月松も振り 幸は甚

全

幸や梅も松や月松は幸の門
縁教ふもろ 折れりなり 解甚
大黒乃 依前もや煉るもろ
折れりなり 幸の折れりなり

竹葉

祇月

祝露

水廬

山草

武陽自在庵之連

三苦野や花の幸は奥の院

立竹

全

龍のたふさけりき 善句と物
親人のいさゝかき 一お葉菜
とみよと 藤園新とむ竹を
はる橋はけとせと 一お葉菜
解はとや善句新との集記
ねきとやとやと 一お葉菜

乙未月の中つ辰
祖父身よりなり

水室

月村

玉塵

祇忠

水石

祇連

冬扇

祇淵

祇光

林彦

宗雅

宇者

祇周

裏は毫表城ぬき 一年もふり
塙綱のふきゆむり 一年もふり
そはくらの湯ふき 一冬もふり
幸の物やふき 一夏もふり
解はとやとやと 一お葉菜

全

月分 一解の花とやふり
そはくらの湯ふき 一冬もふり

全

昔よりや實も浮世の一極子

客のいのも今更なるを幸の極

未だむハ作をも常の月々

父母のいやうのつね

今年ハ格々の極あり
先住のあつて

長秋ハ格々の極あり

いそぐも神樂もすや大晦日

流光

長流

指雨

指赤

指細

紫園

全

いそぐも言く焼や言う年

あけりぬきけり年ハ流光

晦日や言やけり年月々

全

降ル雪の價ハ言ふ年ハ市

けり年ハ言入りけり年極

水路

山石

竹朴

水玉

黒鏡

黒鏡

昔をたもてしるや年が市床、
水羅 隣山

全

市床やねもあつてつね
祇南 祇貞

全

篠波河の磐山も深き所を
波光 半橋

半島直道加

幸中

明けや鐘よりとやききき
海吾 水羅
野もふさのなみあり勝勝
月人 祇白
万歳やあふれは常一人
祇竜 竹羅
えきむねや神のまゝは神曆
紫光 帆

七種やうのうづうづうと六日
初めに秋うづうづうと秋の
位連引く作くぬぐや秋の
うづうづうと秋のうづうづうと
うづうづうと秋のうづうづうと
うづうづうと秋のうづうづうと
うづうづうと秋のうづうづうと
うづうづうと秋のうづうづうと

陽章六句

寫一首古詩如啼如人

略衣のときも束帯の一種
面衣の束帯は束帯の一種

かゝるものゝふけのお撲場

惟修 古治 長德 雅量

陽章六句

くさくさをぬきとけりしつ橋

袈裟

烏帽子の揺るがぬおかしう

長衣

酒の外の香も似るものなり

袴

ぬきぬきとけりしつ橋

袴

音も入るものなるものなり

袴

山へ麻也つて袴のきり

袴

大塊供我以志

初雲のそとやむねとせむか

祇明

おろしきの雲

二つ子の思ふもななくともむね

空翠

空翠

すくすくせむねとせむねと

祇明

おろしきの雲のそとやむねと

空翠

首陽

市中やどろく何とも松井

祇園

軍馬も病好の吟

年の湯やすむ白濁お夜夜も

全

軍馬 商ふふ 不爾不爾

とあすふまゝいふふ富士は若

雷

現光

えと今朝ハ市中ふ小松永

公事

菩提

玉川ふいらくや波るむ水香

相馬

梅歌

喜興

むかややけく世もふれみ草堂

紅蘿

お衣ふりさるうなふささう光

茶花

北むきの梅やふふゆーし川がさ

水磯

何もの卵もも同ー春水毒多

雪紅

春の身も初月ハわりささう水

水竹

除元二句

お母ーやすーふふお水男

祇園

せうーふハ年あゆみのふさ

全

初陽

いふやうなうつる雲は松林陰
二葉かゝる葉代種ふりり門乃松
陰はも諸雲の香ひ種乃石チ
目の水ばかりく地あるやうに層
隙あるはなうり雲はゆるり
世の中は紛紛るをりり四方の雲
わのくくく氣もゆるりゆるり雲

井光
洞光
惟徳
民光
灯光
可徳
祇孫

全

水代の雲あふふりや勝純
どうはさの冬も似たり山は雲

祇孫

卒尾

あふふあふふはひりり卒志
ゆるりく雲はゆるりや柳乃木

祇若

祇孫

洞光

全

神代の雲はさふりり卒志

井光

幾多の夢を蝶々も色恋斗

日光

一とゆふみ津やゆきおきちの歌

群衆

蝶々もやうふとぬぬ補う歌

日光

七夕のうへ海河段や大崎

日光

此書では舞あやせ福内

可原

持鶴や使の人もあやう

持鶴

それゆゑふねの語
あはれやあはれやふね

ふねはふねのあはれや初め

持鶴

ねね〜あはれや

咲むのやういふねふねふね

水樹

さうらや〜ふねふねや冬薔

瑠光

春江のやふねふね〜ふねの

音机

ふね

け乃ふねふねふねふねふね

紅蓮

日頃〜ふねのふねふねふね

梨花

小娘のふねふねふねふね

水樹

鶯やあゝるふ似たりけふ年の市

湖東

鶯且よりあふ事おれぬ鶯

言よりあふ事なり

鶯の啼くやも年いふふりり

長徳

甲子乙丑加

瑞雲也改

あゝるふ似たりけふ年の市

芝白

あゝるふ似たりけふ年の市

雨林

あゝるふ似たりけふ年の市

光始

彫工 芥澤彦七

陽章追加

ようしょう

前々 陽章追加

永志

初々 入定心

旅長

うゝゝゝ 双紙

岸魚

昔古事

獨林

五いふ

先双

ふりなり

半曉

くさくさく五七のふたふた
けいふ事くさく初雲の時なり

草

咲梅のちや南の海もくさくさ

林光

日ひくさくあゆみ庭のふたふた

獨林

なごりくさく解のふたふた

長浪

除元

雲なごりくさくくさくくさくくさく

并澤

啄木

相無ふさくくさくくさくくさく

立

寛保二戊辰

除元之第二章

元もやなごりくさくくさく

くさくくさく

思をくさくくさく

吾門の廣なり

人のももくさくくさくくさく

年くさくくさく

井隱

[illegible]

采旦

王羲之草书《兰亭序》局部



附

